

拠点大学の概要及び採択理由

機 関 名 筑波大学

〔国際化拠点の構想の概要〕

筑波大学はその建学の理念において名実ともに「開かれた大学」として、「国内外の教育・研究機関及び社会と自由かつ緊密なる交流を深め、学際的な協力の実をあげながら、教育・研究を行い、もって創造的な知性と豊かな人間性を備えた人材を育成する」ことを掲げている。このように、開学当初から多くの留学生と外国人教員が日本人学生・教員とともに学び研鑽しあう共生の場「世界との共生の場」としてスタートした。また最先端レベルの研究水準と規模を誇る「筑波研究学園都市」の中核機関として期待され、諸研究機関との連携を教育・研究に活かしながら発展して来た。このような建学の理念と立地上の優位性を持つ本学は、これまでの国際連携事業の実績を基盤に、世界の人々と協働できる人材育成を目指して、21世紀における教育・研究の世界的拠点構築を目指している。今回の国際化拠点構想は、本学が教育研究を通して国際社会でのリーダーを目指す一方、学生と教職員が世界の一員であることを日常的に実感する環境が具現化出来る「国際性の日常化」の契機であると認識している。本構想においては、留学生数の飛躍的な増加を目指し、平成32年で留学生4,500名、外国人教員160名以上(全教員の10%以上)、海外派遣日本人学生年間1,000名、英語で学位の取れる新規コースを5年以内に学部レベルで3つ以上、すでに実施済みの大学院でも6つ以上開設する。なお、本拠点構想の遂行に際しては下記の4点に特別の力点を置いて実施する。

① 学際的な英語学位プログラム充実と日本語・日本文化の習得機会の提供:

「世界との共生」の意識を高め、また「国際性の日常化」をさらに推進すべく、本構想においては単に「授業の英語化」を行うのではなく、グローバルに活躍できる人材の育成を目指し、留学生にとっても魅力ある勉学の実現する。特に本学ならではの学際的学問分野を活かした授業や研究指導を展開し、留学生にも日本人学生にも有益な英語による学位取得可能なプログラムの構築を行う。その際、本学が豊富な実績を有する日本語・日本文化の科目の充実を図りつつ、留学生の日本語能力の向上と日本理解の深化にも努める。また従来は、英語のみで学位取得可能なプログラムは大学院に限られていたが、新たに学部レベルでも英語によるプログラムを複数設置する。具体的には、今後5カ年間に生命環境分野、国際総合分野、医科学分野での開設を、また大学院レベルでは既存の英語学位プログラムが実績を挙げつつあることを踏まえ、大学院共通科目の整備強化を推進し、e-learningをさらに拡充して、英語学位プログラムの増設発展を目指す。

② 全学の教育・支援システムの多言語対応化:

本学は建学以来、外国人教員の重点配置等を行って教育・研究面での国際化の実を挙げて来た。今後はこの方針をさらに進めるために、教育・研究スタッフにおける外国人教員の増員を図る。さらに事務系職員についても、外国語能力の向上と多言語対応化を図るために、外国語能力の高い人材の新規任用を進め、現有の事務職員に対する語学研修コースの拡充、海外派遣の充実を図る等の重点的措置をとり、学内の意識改革を進めて留学生に対する教育支援システムをいっそう整備する。

③ 国際的ネットワークの強化:

本学では、平成21年4月現在、49ヶ国、172の大学・研究所・国際機関との連携協定を締結済みで、協定校との間で双方向的な留学生の交流を推進している。海外拠点として、我が国の国際戦略にとってフロンティアである北アフリカ(チュニジア)と中央アジア(ウズベキスタン)に2拠点を設置し、優秀な留学生の受入れに多くの成果を挙げているが、本事業において両拠点からそれぞれ300名、600名の留学生を受け入れる。また、両拠点では全国共同利用事務所として再編強化の上、全国の大学へのサービスを提供する。とりわけ渡日前入学許可・渡日前教育について他大学との共用体制を整える。この他に、本年中に中国、ベトナム、欧州(ドイツ)での拠点を開設する。

④ 筑波研究学園都市に根ざした国際化

本学は最先端レベルの研究水準と規模を誇る「筑波研究学園都市」の中核機関として建学され、「つくば」の地の利を活かした国際化に取り組んできた。つくば市内の主要な先端研究所と連携した既存の「連携大学院制度」の拡充の他、各研究所に勤務する外国人研究者を講師として大学へ招聘し専門性の高い英語での講義の実施などを計画している。また、つくば市に在住する外国人研究者・教員とその家族のために友好的な生活環境の整備を図るべく、本学はつくば市並びに市内の主要な研究機関と協議を進めている。一例として、留学生・外国人教員と地域住民が、英語で自由な会話を楽しめる国際空間「City Chat Cafe」を昨年度から学外で開催して好評を得ており、このような交流の場の機能をさらに推進する。

【筑波大学】

国際化拠点の概念図(海外における留学を促進するための取組、国内における留学生の受入のための取組について、構想の達成目標と取組計画をわかりやすく図示してください。)

知の世界拠点として世界と共生する筑波大学

ユニークな国際ネットワークに基づく重点的学術交流

東南アジア、中央アジア、中東、東欧、地中海、アフリカ地域の重点化

共同利用事務所: 北アフリカ・地中海(チュニジア)、中央アジア(ウズベキスタン)
海外拠点: ドイツ、ベトナム、中国

海外拠点を基軸とした学術ネットワークの展開・ワンストップサービスの提供

留学生の渡日前・帰国後の支援 派遣中の学生・教員のサポート 有力大学との連携

多様な地域からの留学生の受け入れ

	H20	H32
	1377名	4500名
中国	38.5%	30%
アジア	39.9%	40%
その他の地域	21.6%	30%

日本人学生の海外派遣

	H20	H32
	221名	1000名

国際性が日常化した大学環境の実現

英語による学際的基礎教育と高度専門教育

	学群		大学院
生命環境科学	新設 1	新設 2	既設 4
社会・国際/ 人文社会	新設 1	新設 1	既設 4
医学/人間総合	新設 1	新設 2	既設 1
数理物質			既設 1
システム情報工学			新設 1
ビジネス (社会人大学院)			既設 1

日本人学生の国際化

語学力向上の取組み
海外有力大学とのデュアルディグリー・単位互換の拡充
海外派遣助成制度の積極的活用

留学生と日本人学生の共生

チューター制度によるマンツーマンの交流
留学生への学生宿舎の優先的提供、日本人学生との混住
留学生に対する日本語・日本文化教育の拡充

多言語に対応した教育・学生支援

外国人教員の積極的配置
職員の国際化の推進
事務手続き、学内文書の多言語対応

筑波研究学園都市に根ざした国際化

研究機関と連携した教育
外国人に優しいまちづくりに向けた協同
留学生と市民の交流の促進

「国際化推進委員会」を中心とした全学的実施体制の強化

教育・学生支援・国際関連部署の連携強化

高い研究レベルに裏打ちされた「知の蓄積」

国際的リーダーとなる人材の輩出

地球規模課題に対する解決策の提示

大 学 名	筑波大学
-------	------

〔採択理由〕

筑波大学のこれまでの国際化に関する優れた取組を踏まえ、今回の構想において英語による授業のみで学位が取得できるコースを多様な分野に開設するとともに、留学生の受入体制の整備や、非英語圏からの留学生及び日本人学生に対する英語力の強化のための方策など、細部にわたり行き届いた計画がなされていることから、実現性の高い構想と評価でき、今後の留学生の受入の更なる充実とともに、我が国を代表する国際化拠点としての今後の展開が十分に期待できる。

<特に優れた点、期待できる点、留意すべき点>

- ・ 留学生の宿舎の整備をはじめ留学生に対する生活面へのサポート体制など、受け入れる留学生に配慮された計画となっている点は評価できる。
- ・ 北アフリカ地域に海外拠点を持ち、アジア以外からの留学生の受入に積極的に取り組んでいることは評価できる。
- ・ 達成目標の実現に向け、日本人学生の海外派遣に関し、取組の充実のための方策の具体化が望まれる。